小　学　校

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

音　楽

東京都教育委員会

目　　次

Ⅰ　研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

Ⅲ　研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

Ⅳ　研究方法
　1　基礎研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
　2　実践研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
　3　検証授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅴ　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅵ　研究の内容
　1　自分の成長を実感できるようにするための三つの手だて(☆)について・　4
　2　音楽の学びを充実させるための五つの基本(★)について・・・・・・・・　5
　3　実践事例
　　(1)第３学年の実践例　題材名「名前を使って音楽をつくろう」・・・・・　6
　　(2)第６学年の実践例　題材名「いろいろな音の響きを味わおう」・・・・　10
　　(3)第４学年の実践例　題材名「役になりきって歌おう」
　　～めざせ学校デビュー～・・・・・・・・・　17

Ⅶ　研究の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24

研究主題

音楽の学びを通して、自分の成長を実感できるようにするための指導の工夫

Ⅰ　研究主題設定の理由

平成29年３月31日に文部科学省において「小学校学習指導要領の全部を改正する告示（以下「新学習指導要領」という）」が公示された。学校教育が長年目指してきた「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を三つの柱に整理するとともに、全ての教科の目標及び内容は、この三つの柱に基づき「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」に再整理された。また、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが重要であることが明示され、その視点として「主体的・対話的で深い学び」が位置付けられた。

本研究では、来年度から始まる移行期に備え、現行の学習指導要領を基に、新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善のための指導の工夫をについて考察した。授業実践と授業分析を行った結果、①児童は教師に指示された活動を行うだけになってしまっている②友達の演奏を聴いたり学習の振り返りをしたりする場合、「よかった」「すごかった」「おもしろかった」「楽しかった」という感想だけになってしまう児童がいる③既習事項を活用して学習に取り組むことができていない、という実態が浮かび上がった。この考察結果から授業改善を図るために、指導上の課題を以下の三点に整理した。

・児童に授業を主体的に取り組ませること
・児童に身に付けた力を実感させること
・児童の振り返りを次の学習に生かすこと

指導上の課題から、児童自身が何を学ぶのかを明確に理解した上で、自ら課題を設定し見通しをもって学習に取り組み、振り返りを生かして本時の学びを実感し、次時の学習課題を自ら設定するような授業改善が必要であると考えた。

そこで、研究主題を「音楽の学びを通して、自分の成長を実感できるようにするための指導の工夫」とし、これを実現するための指導方法について明らかにすることにした。

なお、研究主題にある「音楽の学び」とは、現行の学習指導要領である平成20年度改訂における改善の基本方針である、多様な音楽活動を通して、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりすることである。

また、「自分の成長を実感」するとは、主体的に課題に取り組んだことで共通事項を活用する力を身に付け、題材を通して身に付けた力がどのように変容したのかを自分自身が認識することである。

Ⅱ　研究の視点

児童が主体的に学び、共通事項を理解して活用する力を身に付けるために、三つの手だてと五つの基本を設定した。手だてとは、主体的に学べるようにするための具体的な工夫であり、基本とは、手だてとともに共通事項を理解して活用する力を身に付けられるようにするために欠かすことのできない授業の基本の部分である。これらを「自分の成長を実感できるようにするための三つの手だて(☆)」と「音楽の学びを充実させるための五つの基本(★)」として整理し、これらの有用性について、検証授業による実践研究を通して、明らかにすることにした。

自分の成長を実感できるようにするための三つの手だて(☆)
(イ)見通しをもって学習に取り組むための工夫 (ロ)根拠を明確にして自己評価するための工夫 (ハ)学びの連続性を生み出すための工夫
音楽の学びを充実させるための五つの基本(★)
1 発　問　　2 助　言　　3 学習形態　　4 視覚化　　5 比　較

Ⅲ　研究の仮説

学習に見通しをもたせ題材の指導計画に基づいた具体的なめあてを設定し、根拠を明確にした自己評価の工夫や、学びの連続性を生み出すための工夫をした指導をすることで、児童は自分の成長を実感できるであろう。

Ⅳ　研究方法

1　基礎研究

次の文献等を基に、「主体的・対話的で深い学び」や研究主題である「音楽の学びを通して、自分の成長を実感できるようにするための指導の工夫」の考え方や捉え方について整理した。

・「小学校学習指導要領解説音楽編」(文部科学省　平成 20 年８月)
・「小学校学習指導要領解説音楽編」(文部科学省　平成 29 年６月)
・「中学校学習指導要領解説音楽編」(文部科学省　平成 20 年７月)
・「中学校学習指導要領解説音楽編」(文部科学省　平成 29 年６月)
・「小学校学習指導要領実施状況調査　教科別分析と改善点(音楽)」
(国立教育政策研究所教育課程研究センター　平成 27 年２月)
・「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」(文部科学省　平成 28 年８月)
・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」(中央教育審議会　平成 28 年 12 月 21 日)
・「教育研究員研究報告書小学校音楽」
(東京都教育委員会　平成 23・24・25・26・27・28 年度)
・「子供一人一人の『分かり方の特性』を生かした指導法に関する研究」研究紀要
(東京都教職員研修センター　平成 29 年３月)

2　実践研究

７月の分析授業、並びに自己や各地域の指導の状況から課題を挙げ、それに対する基礎研究を行った。これらの課題解決に向け、宿泊研修会等において主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うため、「音楽の学びを通して、自分の成長を実感できるようにす

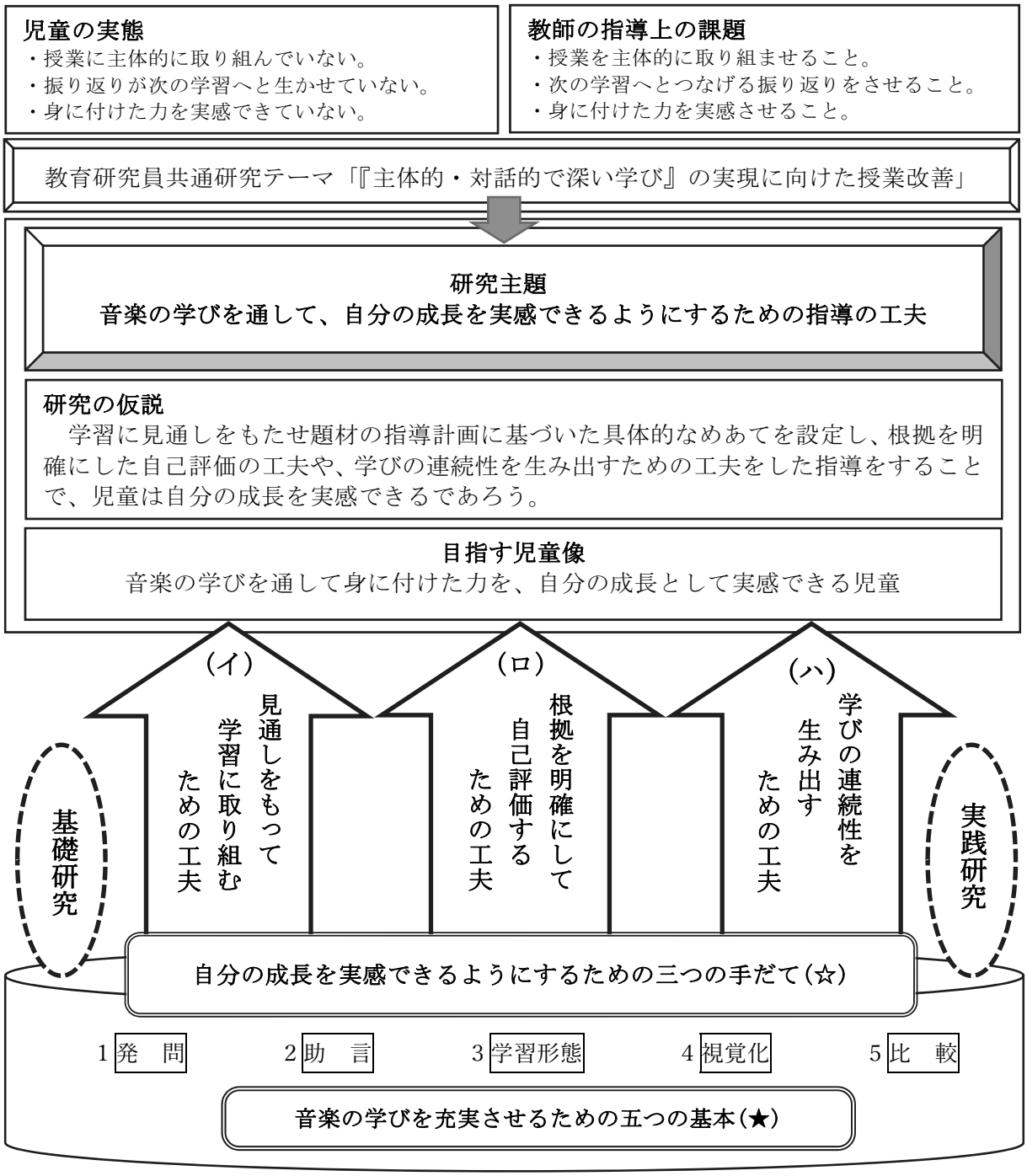
るための指導の工夫」について協議した。研究の視点として「自分の成長を実感できるようにするための三つの手だて（☆))と「音楽の学びを充実させるための五つの基本(★)」を設定し、第３回の検証授業からこれらの有用性について検証を進めた。

３　検証授業

教育研究員の月例会を通し、研究主題に迫るための授業を検討した。また、検証授業を行い、仮説の検証を行った。

７月 19 日	第４学年	A表現(2)器楽	「旋律のとくちょうに気をつけて演奏しよう」
９月 ６ 日	第３学年	A表現(3)音楽づくり	「名前を使って音楽づくり」
10 月 10 日	第６学年	A表現(2)器楽	「いろいろな音の響きを味わおう」
10 月 26 日	第４学年	A表現(1)歌唱	「役になりきって歌おう」

Ⅴ　研究構想図



Ⅵ　研究の内容

１　自分の成長を実感できるようにするための三つの手だて(☆)について

～教師の指導上の課題～
・児童に授業を主体的に取り組ませること。
・児童に身に付けた力を実感させること。
・児童の振り返りを次の学習に生かすこと。

→

～自分の成長を実感できるように
するための三つの手だて(☆)～
(イ)見通しをもって学習に取り組むための工夫
(ロ)根拠を明確にして自己評価するための工夫
(ハ)学びの連続性を生み出すための工夫

１ページに挙げた教師の指導上の課題に対し、三つの手だてを設定し、以下のように整理した。

○手だて(イ)見通しをもって学習に取り組むための工夫

定義	指導計画に基づいた具体的な学習の流れを題材の導入部で児童に提示すること。また、児童にとって分かりやすい必然性のある目標（到達目標）や毎時の具体的なめあてを児童に提示すること。

児童が音楽の学びを通して、身に付けた力を自分の成長として実感できるようにするためには、主体的に課題に取り組む必要があると考えた。そのためにはまず、見通しをもって学習に臨むことが大切である。そのことから、題材の導入部では、具体的な学習の流れを児童に示すことにより見通しをもたせるとともに、必然性のある目標(到達目標)を設定することとした。また、毎時の具体的なめあてを学習計画に沿って提示することも重要であると考えた。

○手だて(ロ)根拠を明確にして自己評価するための工夫

定義	児童が学習課題を意識して、めあてに対し数値化を伴った自己評価を行うこと。またそれを根拠として、振り返りの言語化につなげること。

児童が学習活動を行ったあと、「何となく楽しかった。」というような漠然とした気持ちで授業を終えるのでは、課題を意識した学習ということはできない。このことから、明確な自己評価が重要であると考えた。児童が共通事項を基にした明確なめあてをもち、それに向かって活動した結果、自分がどの程度成長したかを確認できるよう、めあての達成度を数値化した自己評価を行う。達成度を数値化することで、学習に対する自身の取組を具体的に表現できると考えた。また数値を根拠とすることで、振り返りの言語化にもつなげやすくなると考えた。

○手だて(ハ)学びの連続性を生み出すための工夫

定義	児童が、場面に応じた振り返りを積み重ねて行うことにより、活動と活動のつながりを意識した学習が行えるようにすること。

学びの連続性を生み出すためには、学習一つ一つがつながることが重要であると考えた。つながりを意識した学びの中でこそ、児童は自分の成長の実感を得られると考えたからである。この学習一つ一つをつながるようにするものが振り返りである。ここでいう振り返りとは、題材を通したもの、毎時間毎のもの、活動と活動との間に設けるもの等、多くの場面が考えられる。本研究で扱った振り返りは、この中の毎時間毎の振り返りを中心として行ったものを指す。

2　音楽の学びを充実させるための五つの基本(★)について

上述の「自分の成長を実感できるようにするための三つの手だて」とともに、共通事項を理解して活用する力を身に付けられるようにするために欠かすことのできない授業の基本の部分を「音楽の学びを充実させるための五つの基本(★)」として以下のように整理した。

音楽の学びを充実させるための五つの基本(★)	留意点	具体例
1 発　問	めあてを出発点とし、共通事項を根拠に思考できるような発問をすること。	○考えるべき項目や考えの助けとなる事項を、音、音楽、映像、絵、図、文字として提示しながら発問する。 ○表現したことや発言したことに対して根拠となることを導き出し、思考を整理する。
2 助　言	学習の成果や成長を認め、学びがつながるような助言をすること。	○児童の表現や感じ方に対し、教師が聴き取ったことを基に言語化して価値付けする。 ○思いや意図をもって表現できるようにするための共通事項の活用方法を考えられるような助言をする。 ○既習事項を思い出させ、活用できるような助言をする。
3 学習形態	学習内容に応じ、思考が深まるような様々な学習形態を設定すること。	○個での学びを十分に確保する。 ○他者(ペア・グループ・全体)との学びを取り入れる。 ○個の学びに戻り、学びの定着を図る。
4 視覚化	思考を整理し、学びを視覚化すること。	○思考を可視化できる教具(付箋紙、ミニホワイトボード、ワークシート、タブレット PC、ヒントカード、色分けによる分類等)を用いる。 ○映像、絵、図、文字を表示する。 ○聴き取ったことと感じ取ったことを分けて、2つの関係性を理解できるような板書計画をする。 ○活動時に思考がぶれないように、活動内容や順序等を常に確認できるような表示をする。
5 比　較	作品や演奏などの特徴に気付き、そのよさの理解を深めるために、比較すること。	○良い例と好ましくない例を提示する。 ○他者の発表を聴かせる。 ○二つの楽譜等を見て比べさせる。 ○二つの演奏で聴き取ったり、感じ取ったりしたことを比べさせる。

３　実践事例

(1) 第３学年の実践例

ア　題材名　「名前を使って音楽をつくろう」（音楽づくり・４時間扱い）

イ　題材の目標

(ｱ) 拍の流れにのり、自分の名前や好きなことを言葉に表してつくったリズムを基に、変化などの音楽の仕組みを生かしてリズムアンサンブルをつくる。

ウ　題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 言葉のリズムやその組み合わせに興味・関心をもち、友達と音楽をつくる活動に進んで取り組もうとしている。	① 拍の流れを聴き取り、言葉のもつリズム感じ取りながらリズムを組み合わせ、変化、問いと答え、音の重なりなどを生かした音楽をつくり、どのような音楽をつくるかについての思いや意図をもっている。	① 拍の流れにのって、変化、問いと答え、音の重なりを生かした音楽をつくっている。 ② 変化、問いと答え、音の重なりなど音楽を形づくっている要素を理解し、それらを生かした音楽をつくっている。

エ　研究主題にせまるための視点

【(イ) 見通しをもって学習に取り組むための工夫】

本題材では、題材の導入である１時間目にこれから４時間にわたって「つなげる」「問いと答え」「重ねる」「終わりの部分」のある音楽をつくることを児童に知らせることにした。

それに基づき、毎時間のめあてを具体的に設定することにした。この手だてにより、児童は見通しがもてるようになり、授業に主体的に臨めるようになると考えた。

なお、児童が授業の流れをつかみ、先を見通すことができるようにするために、授業の流れをパターン化することにした。

【(ロ) 根拠を明確にして自己評価するための工夫】

毎時間の授業の終盤には、棒グラフで児童の気持ちがめあてにどれだけ近づけたかを表すという形の振り返りを行うようにした。そこには児童が本時の授業を振り返っての自分の気持ちなどを記入する欄を設けた。指導者はそれを基に次時以降の指導計画や一人一人の児童に対する適切な支援ができると考えた。

【(ハ) 学びの連続性を生み出すための工夫】

毎時間の振り返りを紹介したり共有したりすることを通して次の学習への期待感や課題意識をもたせ、児童が次時の学習、さらには題材全体の学習までつなげて考えられるようにした。この積み重ねにより、児童が自分の成長を実感できるものと考えた。

【音楽の学びを充実させるための基本】

１ 発問

めあてを意識させ、児童と児童の思いや考えをつなぎ、ファシリテーターとしての役割をするような発問を心掛けた。

２助言

児童が「失敗しても大丈夫」という安心感をもって取り組めるような言葉掛けをし、前時に児童が書いた振り返りを参考にした学習の成果や成長を認めるような助言をすることを重視した。

３学習形態

音楽の学びを深めるために、児童同士の対話的な学習を毎時間取り入れた。個の時間を十分にとり、一人一人が１小節のリズムをつくることができるようになった上で、グループの学習に入ることとした。

４視覚化

共通事項の理解を促し、児童の思考が深められるように、児童の演奏を視覚的に理解できるような板書を計画した。

５比較

毎時間、他のグループの演奏を聴く時間を設けることで、演奏のよさや特徴に気付き、自分のグループの演奏との比較を通して音楽の仕組みを理解し、自分の考えを深めることにつなげられるようにした。

オ　題材の指導計画と手だてと評価規準

<table>
<tr><td>時</td><td>◆ねらい　〇学習内容　・学習活動</td><td>☆自分の成長を実感できるようにするための手だて
★音楽の学びを充実させるための基本
◇評価規準【評価方法】</td></tr>
<tr><td colspan="3">◆拍の流れにのり、自分の名前や好きなものを言葉にして、リズムを考えて音楽をつくる。</td></tr>
<tr><td>第
1
時

本
時</td><td>〇４拍の言葉のリズムを即興的につくる。
・本題材の見通しをもち、本時のめあてを確認する。
・つくり上げる音楽の構成を確かめ、見通しをもつ。
<table><tr><td>つなげる</td><td>問いと答え</td><td>重ねる</td><td>終わりの部分</td></tr></table>
・自分たちの名前を使って、４拍の言葉のリズムをつくる。
・ペアになり、互いの言葉のリズムを紹介し合う。

〇友達と４拍の言葉のリズムをつなぎ、様々な言葉のリズムを楽しむ。
・３～４人のグループになり、互いの言葉のリズムを紹介し合う。
・他のグループがつくった言葉のリズムを聴く。</td><td>☆これからつくる音楽への見通しをもたせる。（イ）
★つくり上げる音楽の構成を示しながら、発問をする。（１発問）

★グループの活動に入る前に、自分でつくった言葉のリズムを拍の流れにのって声に出す時間、それをペアに聴いてもらう時間を十分確保する。（３学習形態）

★図形楽譜を常に掲示して音楽の仕組みを可視化できるようにする。（４視覚化）
★手本となる児童の演奏を聴いて自分たちがつくったものと比較し、違いや共通点につい</td></tr>
</table>

	・聴いたことをもとに、自分たちの言葉のリズムを工夫する。 ・つくった音楽を記録する。 ・本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	て気付かせる。（5 比較） ☆めあてをもとに、リズムを考えて友達とつなげることができたかを自己評価する。（ロ） ☆本時の活動を振り返り、次の活動につなげるようにする。（ハ） ◇関①【観察、発言内容の聴取、学習カード】
第2時	○問いと答えの表現を工夫してリズムをつくる。 ・前時を想起し、本時のめあてをつかむ。 ・自分の好きなものを使って４拍のリズムをつくる。 ・ペアになり、互いの言葉のリズムを紹介し合う。 ・拍の流れにのって、グループ全員の問い（名前）と答え（好きなもの）のリズムをつなげる。 ・他のグループがつくった言葉のリズムを聴く。 ・聴いたことを基に、自分たちの言葉のリズムを工夫する。 ・つくった音楽を記録する。 ・本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	☆前時を振り返り、本時の学習を確認する。（イ） ★グループの活動に入る前に、自分でつくった言葉のリズムを拍の流れにのって声に出す時間、それをペアに聴いてもらう時間を十分確保する。（3 学習形態） ★図形楽譜を常に掲示して音楽の仕組みを可視化できるようにする。（4 視覚化） ★手本となる児童の演奏を聴いて自分たちがつくったものと比較し、違いや共通点について気付かせる。（5 比較） ☆めあてをもとに、問いと答えの表現を工夫してリズムをつくることができたかを自己評価する。（ロ） ☆本時の活動を振り返り、次の活動につなげるようにする。（ハ） ◇技①【観察、演奏の聴取、学習カード】
第3時	○音の重なりの表現を工夫してリズムをつくる。 ・前時を想起し、本時のめあてをつかむ。 ・自分の名前や好きなものを使って４拍のリズムをつくる。 ・ペアになり、互いの言葉のリズムを重ねる。 ・拍の流れにのって、グループ全員のリズムを重ねる。	☆前時を振り返り、本時の学習を確認する。（イ） ★グループの活動に入る前に、自分でつくった言葉のリズムを拍の流れにのって声に出す時間、それをペアに聴いてもらう時間を十分

	・他のグループがつくった言葉のリズムを聴く。 ・聴いたことをもとに、自分たちの言葉のリズムを工夫する。 ・つくった音楽を紙に記録する。 ・本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	確保する。（3 学習形態） ★図形楽譜を常に掲示して音楽の仕組みを可視化できるようにする。（4 視覚化） ★手本となる児童の演奏を聴いて自分たちがつくったものと比較し、違いや共通点について気付かせる。（5 比較） ☆めあてをもとに、音の重なりの表現を工夫してリズムをつくることができたかを自己評価する。（ロ） ☆本時の活動を振り返り、次の活動につなげるようにする。（ハ） ◇創①【観察、演奏の聴取、学習カード】
第4時	○グループのリズムアンサンブルをつくる。 ・前時までを想起し、本時のめあてを確認する。 ・グループでリズムの特徴や変化の仕組みを生かして、グループごとに簡単な終わり方を考える。 ・グループごとに工夫してつくったリズムアンサンブルを発表し、リズムのよさや面白さを聴き合う。 ・本題材のまとめをする。	☆前時を振り返り、本時の学習を確認する。（イ） ★終わりの部分をつくることが困難であるグループに対しては、これまでに学んだ音楽の仕組みの中から選択するなどの指導・助言をして取り組ませる。（4 視覚化） ★グループごとの演奏のよさを共有するようにし、価値付ける。（2 助言） ★互いにリズムアンサンブルを発表し、よさを認め合う中で、変化などの音楽の仕組みを理解させる。（5 比較） ☆題材全体の学習を振り返る場の設定をする。（ロ） ◇技②【観察、演奏の聴取、学習カード】

カ　成果と課題

○成果

・つくり上げる音楽の仕組みを題材の第１時に示したことにより、児童は学習の到達イメージをもちやすくなり、見通しをもって学習に取り組むことができた。（イ）

・共通事項の視点に対し達成度を棒グラフで表し、その根拠を書き表す自己評価を行うことで、児童が単に「楽しかった」と授業を終わらせることがなくなり、学習内容の定着が図られた。（ロ）

・題材全体を通して毎時間毎の振り返りを重ねることにより、表情や言動からは読み取れなかった児童の気持ちや考えを引き出すことができた。指導者はそれを前時の学習の振り返りの時間に生かすことができた。（ハ）

△課題

・第１時のめあてを「リズムをつないで楽しもう」としていたが、漠然としたものではなく、児童が本時に何をすればよいのかが分かるような具体的なめあてを設定する必要があった。（イ）

(2) 第６学年の実践例

ア　題材名「いろいろな音の響きを味わおう」（器楽・７時間扱い）

イ　題材の目標

(ｱ) パートの役割や楽器の音色の特徴を生かして全体の響きを味わって演奏したり、楽器の組み合わせから生まれる響きの美しさを味わって聴いたりする。

(ｲ) 楽器の音色やリズム、音楽の仕組みを生かして演奏する。

ウ　題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 楽器の音色の違いや楽曲の違いに興味・関心をもつとともに、「ラバースコンチェルト」の範奏を聴いて、主旋律をリコーダーで演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	① 各パートの旋律の違いを聴き取り、その役割を感じ取って、どのように演奏したらよいか自分の思いや意図をもっている。 ② 各パートの旋律の特徴を聴き取り、その役割にふさわしい楽器の音色を感じ取って、どのように組み合わせるかについて自分の思いや意図をもっている。 ③ 各パートの役割を生かした全体の音量バランスを聴き取り、音色や響きを感じ取って、どのように演奏するか自分の思いや意図をもっている。	① 楽譜を見て、旋律のリズムに気を付けて正確に演奏している。 ② 主旋律の音を大切にし、各パートの音が重なり合う響きを感じながら演奏している。 ③ 楽器の音色に気を付け、それらが重なり合う響きを聴き合いながら合奏している。

エ　研究主題にせまるための視点

【(イ)見通しをもって学習に取り組むための工夫】

本題材の指導においては、１時間目に「メヌエット」と「ラバースコンチェルト」の曲の違いについて比較しながら鑑賞することで、「ラバースコンチェルト」に興味・関心をもたせるような手だてを考えた。その上で、児童が先を見通した学習を行えるよう、題材全体の学習の流れに関するオリエンテーションを行い、児童が学習の最終的な到達すべきイメージをもちやすくすることとした。また、毎時の具体的なめあてを学習計画に沿って提示することも併せて行うことで、児童の活動内容を明確にし、児童が主体的に課題に取り組みやすくなると考えた。

【(ロ) 根拠を明確にして自己評価するための工夫】

毎時間の学習の中で明確なめあてをもたせ、それに対する自己評価を活動の最後に必ず行うこととした。この自己評価は、学習課題に対する自己の達成度を数値化したものを用いる

こととし、その方法は学習カードを用い、形式は前回の内容も確認ができるよう、題材全体を通してのカード形式とした。このことにより、本時以前の内容も随時確認できるようにし、児童自身が自分の成長に気付きやすい状況を生み出せると考えた。

～いろいろな音のひびきを味わおう～
『ラバーズコンチェルト』

☆パートの役割について考えよう

パート	気付いたこと	パートの役割
① パート		
② パート		
③ パート		

（　　）組　名前（　　）

☆各パートの役割を考えながら、グループの音を決めよう！

パート	担当者名	楽器名
① パート		
② パート		
③ パート		

☆今日のふりかえり

日付	今日の自分の活動をふりかえり、あてはまるものに○を付けましょう。 4（大変よくできた）　3（できた）　2（少しできた）　1（もう少し）	どんなことに気をつけながら、演奏に取り組みましたか？そして、次はどんなことをがんばりたいですか？
	【め】それぞれのパートの役割を考えながら演奏する。 4 － 3 － 2 － 1	
	【め】それぞれのパートの役割を考えながら演奏する。 4 － 3 － 2 － 1	
	【め】各パートの役割を考えながら、それらに合う楽器を選び、（　　）演奏をする。 4 － 3 － 2 － 1	
	【め】各パートの役割を考えながら、［　　］演奏をする。 4 － 3 － 2 － 1	
	【め】各パートの役割を考えながら、［　　］演奏をする。 4 － 3 － 2 － 1 【め】各グループの演奏を聴き、自分たちとのちがいやよいところを見つける。 4 － 3 － 2 － 1	

【(ハ)学びの連続性を生み出すための工夫】

学びの連続性を意識できるよう、児童同士で学んだことを振り返って活動するようにしたり、前時に学んだことを児童の振り返りを紹介して共有したりするようにした。また、学習カードを用いた振り返りを、本時の課題に対する振り返りを記入すると同時に「次にがんばろうと思うことは」という項目を設けることにより、つながりを意識した学びができると考えた。

【音楽の学びを充実させるための基本】

1 発問

めあてを意識させ、実現するための方法を思考させる意図的な発問をするようにした。

2 助言

児童の思考を整理し、深めていくような助言を心掛けた。

3 学習形態

学習内容に応じた対話的な学びを取り入れ、めあてに対する児童の考えを深めていくこととした。具体的には、指導計画の第３時間目以降に、個の学びの時間を十分に確保した上で、全体・ペア・グループ活動などを適宜取り入れ、一人では味わうことのできない、音の重なりや各パートの役割を意識した演奏に取り組むことができるようにした。

4 視覚化

３時間目以降に電子楽譜を用いた指導を取り入れることで､聴覚的な情報だけではなく、視覚的にも情報を提示し、児童の学びに対する興味・関心を持続させるようにした。

5 比較

各パートの旋律の特徴を捉えやすくしたり、①パート、②パート、③パートを合わせた時の演奏と、それに④パートを加えた時の全体の響きに関する演奏の違いについて比較したりしながら､パートの役割について着目させることで､パートの役割を理解しやすくし、

児童の考えを深めることへつながるようにした。

オ　題材の指導計画と手だてと評価規準

時	◆ねらい　○学習内容　・学習活動	☆自分の成長を実感できるようにするための手だて ★音楽の学びを充実させるための基本 ◇評価規準【評価方法】
◆中心となる旋律、かざりの旋律、響きを豊かにする和音、響きを支える低音というパートの役割を感じ取り、それらの役割を生かして演奏する。		
第1時	○「メヌエット」と「ラバースコンチェルト」とを聴き比べ、楽器の音色や曲想の違いを感じ取る。 ・楽器の音色や曲想、演奏形態等の違いに着目して聴く。 ○「ラバースコンチェルト」の範奏を聴き、主旋律の特徴をつかむ。 ・「ラバースコンチェルト」を聴き、「メヌエット」との違いを聴く。 ・この題材に関する学習計画を把握する。 ・「ラバースコンチェルト」の中心となる旋律に着目して聴く。 ・旋律のリズムに気を付けて、中心となる旋律(パート①)をリコーダーで演奏する。 ・学習を振り返る。	☆２曲を聴き比べることを通して、それらの違いに気付けるようにする。(イ) ★音色に特徴のあるチェンバロの響きを感じ取り、合奏とは異なる点に気付くよう促す。(５比較) ★「ラバースコンチェルト」を聴き、「メヌエット」との演奏形態等の違いに気付くよう促す。(５比較) ☆題材全体を見通すために、具体的な学習計画を示す。(イ) ★児童のつぶやきや発言をまとめ、板書を通して考えを共有させる。(２助言)(４視覚化) ☆めあてをもとに、自分の活動について各パートを意識した演奏ができたかどうかを自己評価する。(ロ) ☆今日の活動を振り返り、次の活動につなげるようにする。(ハ) ◇関①【発言内容の聴取】
第2時	○「ラバースコンチェルト」の範奏を聴き、楽曲の特徴をつかみ、旋律のリズムに気を付けて正確に演奏する。 ・前時の学習を振り返ったり、本時のめあてを確認したりする。 ・範奏を聴き、中心となる旋律、かざりの旋律、響きを豊かにする旋律(①、②、	☆前時を振り返り、本時の活動の流れを確認する。(イ) ★①、②、③パートそれぞれを収録した音源や三つのパートを合わせた音源を用意し、各パ

	③パート)をリズムに気を付けて、リコーダーで演奏する。 ・ペアやグループになり、合わせて演奏する。 ・学習を振り返る。	ートの特徴に気付きやすいようにする。 (4 視覚化) ★各個人が①、②、③パートを十分に演奏する時間を確保する。(3 学習形態) ★ペアやグループになり、違う旋律を重ねて演奏したり、重なる響きを感じたりするようにし、次時の活動につなげるようにする。 (3 学習形態) ☆めあてを基に、自分の活動について各パートを意識した演奏ができたかどうかを自己評価する。(ロ) ☆今日の活動を振り返り、次の活動につなげるようにする。(ハ) ◇技①【演奏の聴取】
第3時	○「ラバースコンチェルト」の各旋律の特徴から、それぞれのパートの役割について考える。 ・前時の学習を振り返ったり、本時のめあてを確認したりする。 ・パートごとの電子楽譜の演奏を聴き、気付いたことを発表し合う。 ・パートの構成や旋律の特徴(リズムや音の高さ等)について電子楽譜で確かめ、①、②、③パートの役割について知る。 ・中心となる旋律、かざりの旋律、響きを豊かにする和音(パート①、②、③)の役割を意識しながら、リコーダーで演奏する。 ・任意のペアやグループで演奏する。	☆前時を振り返り、本時の活動の流れを確認する。(イ) ★メモを基に各自が気付いたことを発表し児童の意見を板書でまとめ全体で共有するようにする。 (1 発問)(3 学習形態)(4 視覚化) ★児童の理解を深めるために、電子楽譜を用意する。今回電子楽譜を用いることが有効だと思われる点は、パート毎の音源に着目しやすくしたり、楽譜上どこを演奏しているか視覚的に確認したりできる点にある。また、パートの組み合わせを変えることで響きの違いに気付きやすくする。(4 視覚化) ★各パートの音量調整を行い聴き比べることを通して、中心となる旋律の役割の大切さに気付くようにする。(5 比較) ★ペアやグループになり、互いの演奏を聴き合いながら各パートの役割を意識した演奏をするようにする。(3 学習形態)

	・学習を振り返る。	★各グループの活動の様子を見て回り、よさを認めるような助言をする。（2 助言） ☆めあてをもとに、自分の活動について各パートを意識した演奏ができたかどうかを自己評価する。（ロ） ☆今日の活動を振り返り、次の活動につなげるようにする。（ハ） ◇創① 【発言内容の聴取、演奏の聴取、学習カード】
第4時	○それぞれのパートの役割について考えながら、「ラバースコンチェルト」をクラス全体で演奏する。 ・前時の学習を振り返ったり、本時のめあてを確認したりする。 ・電子楽譜の演奏を聴き、①、②、③パート以外にも、低音パート(パート④)があることに気付き、その役割について知る。 ・①、②、③、④パートをクラス全体で分担し、演奏する。(①、②、③パートは、リコーダーで演奏し、④パートはキーボードを使って演奏する。) ・各パートの役割について考えながら、各パートの重なり合いによって生まれる響きのよさを感じ取り、中心となる旋律パートと他のパートとを聴き合いながら演奏する。 ・学習を振り返る。	☆前時を振り返り、本時の活動の流れを確認する。（イ） ★①、②、③、④パートそれぞれを収録した電子楽譜や四つのパートを合わせた電子楽譜を用意し、各パートの旋律の特徴を理解しやすくする。（5 比較） ★前回の学習をもとに、四つ目のパートの存在やその役割について着目するような発問をする。（1 発問） ★①、②、③パートを組み合わせた演奏と、①、②、③、④パートを組み合わせた演奏とを聴き比べ、④パートの役割の大切さに気付くようにする。（2 助言）（5 比較） ☆めあてを基に、自分の活動について各パートを意識した演奏ができたかどうかを自己評価する。（ロ） ☆今日の活動を振り返り、次の活動につなげるようにする。（ハ） ◇技②【演奏の聴取、学習カード】

◆各パートに合った楽器を選び、パートの役割を生かして演奏する。		
第 5 時	○旋律の特徴から、各パートに合う楽器を選び、音色や響きを生かしてどのように演奏するかについて、思いや意図をもつ。	
	・前時の学習を振り返ったり、本時のめあてを確認したりする。	☆前時を振り返り、本時の活動の流れを確認する。（イ）
	・選択楽器（リコーダー、木琴、鉄琴）の特性について、全体で具体的に確認する。 ・楽器の特徴を踏まえ、各パートにふさわしい楽器について、自分の考えをまとめる。	★選択楽器（リコーダー、木琴、鉄琴）の音色等の特性について全体で具体的に確認し、それを板書しまとめ、共有するようにする。また、パートの役割を生かした演奏にするための思考の視点を具体的に提示する。 （４視覚化） ～思考の視点～ ①楽器の選択について ②人数について
	・自分の考えを基に６人くらいのグループに分かれ、楽器（リコーダー、木琴、鉄琴）の組み合わせを考えて各パートの楽器を選んだり、人数を考えたり、担当者を決めたりする。	★自分の考えをもつようワークシートを用意し、それに考えをまとめてから、グループ活動に入る。（３学習形態）
	・自分たちの考えた楽器の組み合わせが、各パートの役割を意識したものになっているか確かめながら演奏する。	★今回の活動の様子を録画し、次回の活動の際に、自分たちの演奏が役割を生かした演奏になっているかを確認するための手だての一つとする。（５比較）
	・学習を振り返る。	★各グループの活動の様子を見て回り、よさを認めるような助言をする。（２助言） ☆めあてをもとに、自分の活動について各パートを意識した演奏ができたかどうかを自己評価する。（ロ） ☆今日の活動を振り返り、次の活動につなげるようにする。（ハ） ◇創② 【発言内容の聴取、演奏の聴取、学習カード】
第 6 時	○旋律の特徴から各パートに合う楽器か確かめ、全体の音量のバランスに気をつけながら音色や響きを生かしてどのように演奏するかについて、思いや意図をもつ。	

本時	・前時の学習を振り返ったり、本時のめあてを確認したりする。 ・グループ内で、全体の音量のバランスに関する視点で、前回の自分たちの演奏の様子を動画で確認し、今日の課題について各グループで確認する。 ・グループで各担当楽器に分かれ、互いの演奏を聴き合いながら、中心となる旋律を生かした演奏になるよう、音量のバランスや演奏の仕方を工夫する。 ・グループで演奏し、気付いたことや考えをまとめ、「ラバースコンチェルト」を仕上げる。 ・学習を振り返る。	☆前時を振り返り、本時の活動の流れを確認する。（イ） ★前時の自分たちの演奏を振り返る場面を用意し、主な旋律が生かされた演奏になっているか確認するようにし、自分たちの課題に気付くように助言する。（1 発問） ★互いに聴き合ったり演奏を確かめ合ったりしながら、主な旋律を生かすにはどれくらいの音量で演奏すればよいか何度も確かめながら、合奏するよう各グループに促す。（2 助言） ★各グループを巡回し、各パートの役割を意識しながら演奏しているか確認するとともに、いくつかのグループの工夫のよさを全体の場で紹介する。（5 比較） ☆めあてをもとに、自分の活動について各パートを意識しつつ、全体の音量のバランスを考えた演奏ができたかどうかを自己評価する。（ロ） ☆今日の活動を振り返り、次の活動につなげるようにする。（ハ） ◇創③ 【発言内容の聴取、演奏の聴取、学習カード】
第7時	○各グループの演奏を発表し、聴き合う。 ・前時の学習を振り返ったり、本時のめあてを確認したりする。 ・各グループの演奏を聴き合い、自分たちの演奏と違うところやよさを見付ける。 ・学習を振り返る。	☆前時を振り返り、本時の活動の流れを確認する。（イ） ★児童の意見を確認しながら価値付けすることで、各グループの演奏のよさを認め合いながら聴けるようにする。（1 発問）（（2 助言）（4 視覚化） ☆めあてをもとに、自分の活動について各パートを意識した演奏ができたかどうか自己評価する。（ロ） ◇技③【演奏の聴取、学習カード】

カ　成果と課題

○成果

・学習計画を題材の１時間目に確認し、それに向かうための明確ななめあてを毎時間もつことにより、児童が先を見通し主体的に活動する姿が見られた。本実践例では、第１時

に学習全体の流れと目標を確認し、学習課題を自分の課題として捉えることができたため、それぞれのパートの役割を生かした演奏を各グループが意識して行い、課題に対し前向きな姿勢で取り組む児童の姿が見られた。学習のめあてが明確であれば、児童の活動内容も明確となり、児童が主体的に課題に取り組みやすくなった。（イ）

・毎時間のめあてに対して学習カードを用いた自己評価を行うことは、その日の活動に対する自分の頑張りや気付きを客観的に考える手だてとなり、自分の成長を実感として捉えるのに有効だった。（ロ）

・次の活動へとつながる視点を設けた学習カードで振り返りを行うことは、児童が次回何をしたらよいのか自ら考えるのに有効だった。（ハ）

・比較する方法の一つとして、今回自分たちの演奏の様子をタブレットを用いて録音し、聴く活動を取り入れたことにより、前回の演奏と比較することで、自分たちの演奏の成長を実感することができた。（ハ）

△課題

・学習計画が長期にわたる場合、児童が常に学習の流れを意識しておくことは難しい。そのため、計画を分かりやすく掲示し、計画上の本時の位置付けをその都度、児童と一緒に確認する時間を確保することで、先を見通した活動によりつながりやすくなったと考える。（イ）

(3) 第４学年の実践例

ア　題材名　「役になりきって歌おう　～めざせ学校デビュー～」（歌唱・５時間扱い）

イ　題材の目標

(ｱ) 歌詞の内容や旋律の動きと強弱の関わりを生かして、表現の工夫をする。

(ｲ) 主人公の気持ちを想像し、自分の気持ちとして多くの人に伝わるような歌声で表現する。

ウ　題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 歌唱曲「トゥモロー」に興味・関心をもち、主人公の気持ちになって歌う活動にすすんで取り組もうとしている。 ② 友達の前で歌ったり、友達の演奏やプロの演奏を聴いたりすることで、表現する面白さを感じて、楽しんで学習に取り組んでいる。	① 音程やリズムを聴き取り、言葉のもつリズムなど語感を感じ取りながら、どのように歌いたいか思いや意図をもっている。 ② 旋律の音の動きを聴き取り、フレーズごとの旋律の違いを感じ取りながら、強弱をどのようにつけて歌うか思いや意図をもっている。	① 歌詞の内容や旋律の特徴を生かし、表情や強弱などを大切にして、自然で無理のない歌い方で歌うことができる。

エ　研究主題にせまるための視点

【(イ)見通しをもって学習に取り組むための工夫】

本題材の指導においては、導入部分である１時間目に楽曲に対する憧れをもたせ、先を見通した学習ができるように、題材全体の流れを確認するオリエンテーションを行った。このことにより、学習の到達イメージをもちやすくなり、主体的に学習の取り組むことができる

と考えた。また、学習計画を毎時間掲示しておくことでいつでも学習の到達イメージを意識できるようにした。

【(ロ) 根拠を明確にして自己評価するための工夫】

毎時間ごとに明確なめあてをもち、それに向かって活動した結果、自分がどのくらい成長したのかを自分の目で確認できるように、達成度を数値化した学習カードを用いた。数値はデビューという言葉をキーワードに、段階を追った到達点(デビューレベル)を示した。１．学校デビュー(全校の前で自信をもって歌える)、２．クラスデビュー(クラスの友達の前で自信をもって歌える)、３．家族デビュー(家族のだれかの前で歌える)、４．お風呂場デビュー(お風呂の中で気分よく歌える)、という言葉を使って数値化することで、自己評価へとつなげた。明確な自己評価をすることで、課題に対する児童の気持ちがより鮮明になり、その結果、児童自身が自分の成長を実感しやすい状況が生み出されると考えた。

役になりきって歌おう！　ふりかえりカード

めざせ！
学校デビュー！！

年　　組　名前

月日		／	／	／	／	／
めあて（めあてをしっかりともって活動しよう！）		学校デビューをめざして、音程やリズムを正しく歌おう！	アニーの気持ちを考えて、言葉を大切に歌おう！	旋律の上下の動きを生かして、強弱をつけて歌おう！	歌うスタイルを決めて、今まで工夫したことを生かせるように歌おう！	学校デビューはすぐそこ？クラスデビューをクリアしよう！
デビューレベルチェック（○をつける）	1学校デビュー					
	2クラスデビュー					
	3家族デビュー					
	4お風呂場デビュー					
ふりかえり（今日の学習でわかったこと、感じたこと・めあてに対するふりかえり）						
先生から						

【デビューレベルの説明】	1学校デビュー（全校の前でも自信をもって歌える）	3家族デビュー（家族のだれかの前で歌える）
	2クラスデビュー（クラスの友達の前で自信をもって歌える）	4お風呂場デビュー（お風呂の中で気分よく歌える）

【(ハ)学びの連続性を生み出すための工夫】

学びのつながりを意識できるように、児童同士で学んだことを振り返って活動するようにしたり、前時に学んだことを児童の振り返りを紹介して共有したりすることとした。このように、つながりを意識した学びの中で、児童は自分の成長の実感を得られると考える。

【音楽の学びを充実させるための基本】

１発問

意見交換をする際、児童の思考を整理し深めるために、発言に対して根拠を求める発問を心掛けた。

２助言

根拠をもって表現できている児童に対して、具体的に褒めることによって価値付けをするようにした。児童同士の交流の際の評価の基準となり、互いに思いや考えを深め、技能も向上すると考えた。

３学習形態

音楽の学びがより深まるように、児童同士の対話的な学習を取り入れた。友達とかかわる活動の前には、自分の技能や考えが確立してから行えるように、個の時間を十分に確保することを重視した。

４視覚化

個の技能や考えを効果的に高めるために、毎時間チェックポイントを設定し、めあてに即した到達目標を掲示することで､その時間で何が達成できたらよいかを常に意識させた。

５比較

自分の表現を明確にするために、二つの表現を例示して、どちらが自分の思いを表現するのに近いのか比較する活動を取り入れた。

オ　題材の指導計画と手だてと評価規準

時	◆ねらい　○学習内容　・学習活動	☆自分の成長を実感できるようにするための手だて ★音楽の学びを充実させるための基本 ◇評価規準【評価方法】
◆１次　想像した主人公の気持ちを表すために、歌詞の言葉と表情の関わりや旋律の動きと強弱の関わりを生かして、表現の工夫をする。		
第 1 時	○「トゥモロー」の歌詞に込められた主人公の気持ちを感じ取る。 ・学習全体のめあてを確認し、達成するにはどんなことが必要か話し合う。 ・本時のめあてを確認する。 ・歌うスタイル(ソロ、ペア、トリオ、４人グループ)を選ぶことを知り、ゴールイメージをもつ。 ・ミュージカル「アニー」の主人公アニーの性格や境遇、「トゥモロー」が歌われる時の状況を知り、歌詞を読んで内容を理解し、アニーの気持ちを考える。	☆役になりきるには、どんなことができていたらよいのか考えるようにし、段階を追った到達点(デビューレベル)を示した学習計画を示す。(イ)(４視覚化) ☆学習の最終的な姿をイメージしやすいように、歌うスタイルを選んで歌うことを伝える。歌うスタイルや一緒に歌う相手は４時間目に決めるということも伝える。(イ) ★物語の設定や歌詞の内容から、アニーの気持ちを考えるようにし、全体で共有するようにする。(１発問)

	○旋律に親しむ。 ・楽譜を見ながら、音程やリズムを正しく歌う。 ・参考音源を聴き比べ、表現の違いを感じ取る。 ・主人公の気持ちになって歌う。 ・学習の振り返りをする。 数値化を伴った自己評価 〈デビューレベル〉チェック 1　学校デビュー　2　クラスデビュー 3　家族デビュー　4　お風呂場デビュ	 ★音程やリズムのとりにくい部分を、手を上下させて示し、音を目で確かめられるようにする。（4 視覚化） ★これまでにたくさんの人がアニーを演じてきたことを伝えるとともに、二つの録音を聴き比べ、表現の違いを感じるようにする。（5 比較） ☆自分だったらこう歌いたいという思いをもって歌うように助言し、次時の学習につなげるようにする。（ハ） ☆デビューレベルをチェックし、本時のめあてに対して振り返るようにする。（ロ） ◇関①【観察、学習カード】
第 2 時	○歌詞の内容を理解し、歌い方を工夫する。 ・前時を振り返る。 ・本時のめあてを確認する。 ・歌詞を声に出して読んで、アニーの気持ちを考え、自分が一番気持ちを伝えたい部分を選び、その理由についてカードに書く。 ・どのように歌ったらよいのか、全体で話し合い、確認する。 ・ペア(もしくはトリオ)になり、歌詞の気持ちが相手に伝わるように歌う。 ・友達の表現が伝えようとしている気持ちとつながっているかどうか互いに評価する。	 ☆本時につながる振り返りを紹介する。（ハ） ☆本時の学習の流れを確認する。（イ） ★「気持ち伝えたいカード」（学習カード）を用意し、日本語のアクセントを伝え、特に伝えたい言葉は何かを考えるようにする。（1 発問） ★五つの部分に分け、自分が一番気持ちを伝えたい部分を選ぶようにし、その理由について１人で考え書くようにする。（3 学習形態） ★教師が歌って、チェックポイント（「１音程とリズムが正しい」「２言葉がはっきりしている」「３言葉に合った表情をしている」）が理解できるような例を示す。（5 比較） ★視覚的に確認できるようにチェックポイントをカードにし、掲示する。（4 視覚化） ★どの部分を選んだのか確認し、選んだ部分が同じ友達同士で交流できるようにする。（3 学習形態） ★「気持ち伝えたいカード」のチェックポイントに○を付け、さらにアドバイスをし合うようにする。（3 学習形態）

	・友達から評価されたことをもとに、気持ちが伝わるように工夫し、楽曲を通して歌う。 ・学習の振り返りをする。	★よい表現ができていた友達を紹介するように促し、演奏のよさを共有するようにし、価値付ける。（２助言） ☆友達にアドバイスされたことを振り返って、歌い方を工夫して歌うように助言し、次時の学習につなげるようにする。（ハ） ☆デビューレベルをチェックし、本時のめあてに対して振り返るようにする。（ロ） ◇創①【観察、演奏の聴取、学習カード】
第３時 本時	○旋律の動きと強弱の関わりを感じ取り、歌い方の工夫をする。 ・前時を振り返る。 ・本時のめあてを確認する。 ・旋律の動きの変化を感じ取って歌う。 ・第２時に選んだ部分の旋律の音と音を線でつないで、どのように動いているのか確認し、その上でどのような強さで歌いたいかを「気持ち伝える工夫カード」に書く。 ・どのように歌ったらよいのか、全体で話し合い、確認する。 ・ペア(もしくはトリオ)になり、気持ちを伝えるための工夫が相手に伝わるように歌う。 ・友達の表現が伝えようとしている工夫とつながっているかどうか互いに評価する。	☆本時につながる振り返りを紹介する。（ハ） ☆本時の学習の流れを確認する。（イ） ★旋律の音の高さに合わせて手を動かすようにし、五つの部分がどのように変化していくか体で感じ取るようにする。（１発問） ★旋律の動きが目で確認できるように、音符同士を色つきマーカー（１・２・４段目…オレンジ、３段目…青、５段目…赤）で塗ってある拡大楽譜を用意する。（４視覚化） ★第２時で選んだ部分の旋律の音と音を、鉛筆を使ってつなぐようにし、どのような形になったか目で確認するようにし、強弱記号を１人で考えて書き入れるようにする。 （３学習形態） ★教師が歌って、チェックポイント（「４旋律の動きを生かした強弱がついている」「５しっかり声が出ている」）が理解できるような例を示す。（５比較） ★視覚的に確認できるようにチェックポイントをカードにし、掲示する。（４視覚化） ★「気持ち伝えたいカード」のチェックポイントに○を付け、更にアドバイスをし合うようにする。（３学習形態）

	・評価されたことをもとに、工夫したことを意識して、気持ちが伝わるように、楽曲全体を通して歌う。 ・学習の振り返りをする。	★よい表現ができていた友達を紹介するように促し、演奏のよさを共有するようにし、価値付ける。（２助言） ☆友達にアドバイスされたことを振り返って、歌い方を工夫して歌うように助言し、次時の学習につなげるようにする。（ハ） ☆デビューレベルをチェックし、本時のめあてに対して振り返るようにする。（ロ） ◇創②【観察、演奏の聴取、学習カード】
◆２次　主人公の気持ちを自分の気持ちとして、多くの人に伝わるような歌声で表現する。		
第４時	○気持ちを伝える表現の工夫をもとに、多くの人に伝わるように歌う。 ・前時を振り返る。 ・本時のめあてを確認する。 ・歌うスタイル(ソロ、ペア、トリオ、４人グループ)を選び、一緒に歌う友達を決め、その友達と相談し、歌いたい部分を選んで歌う。 ・選んだ部分をどのように歌いたいかを一緒に歌う友達に伝えてから歌う。 ・友達の表現にどのような工夫が生かされているか互いに評価し、アドバイスし合う。 ・一緒に歌う友達同士で旋律をつないで歌い、楽曲全体を通して歌う。 ・友達や教師にアドバイスされたことをもとに、今まで工夫したことを生かして、多くの人に伝わるように楽曲全体を通して歌う。 ・学習の振り返りをする。	☆本時につながる振り返りを紹介する。（ハ） ☆本時の学習の流れを確認する。（イ） ★複数で歌う場合、ソロで歌う部分や複数で歌う部分を考えるようにする。（１発問） ★「気持ち伝えたいカード」や「気持ち伝える工夫カード」をもとに自分の工夫を言葉で伝え、一緒に歌う友達に聴いてもらうようにする。ソロで歌う場合は、ソロ同士で聴き合うようにする。（３学習形態） ★今までの５つのチェックポイントを振り返ることができるように、カードを掲示しておく。（４視覚化） ★各グループの活動の様子を見て回り、よさを認めるような助言をする。（２助言） ☆友達や教師にアドバイスされたことを振り返って、歌い方を工夫して歌うように助言し、次時の学習につなげるようにする。（ハ） ☆デビューレベルをチェックし、本時のめあてに対して振り返るようにする。（ロ） ◇技①【観察、演奏の聴取】
第５時	○友達の演奏のよさを感じ取って聴く。 ・前時を振り返る。 ・本時のめあてを確認する。	☆本時につながる振り返りを紹介する。（ハ） ☆本時の学習の流れを確認する。（イ）

	・前時を振り返り、一緒に歌う友達同士やソロ同士で聴き合いながら全曲を通して歌う。 ・クラスの前に出て発表する。 ・友達の歌声や、表現のよさを感じ取って聴く。 ・全員の演奏が終わったら、心に残った演奏を発表する。 ○プロの演奏のよさを楽しむ。 ・映画「アニー」の中で「トゥモロー」が歌われるシーンを観て、役者の歌声や表情のよさ感じ取る。 ・学習の振り返りをする。	★グループの友達同士で聴き合い、気持ちが伝わっているか確認するようにする。 （3 学習形態） ★どんな表現がよくて、どんな気持ちが伝わってきたか、心に残った演奏があったら、後で発表するように前もって伝えておき、演奏のメモができる学習カードを用意しておく。 （1 発問） ☆表現することの素晴らしさに気付けるようにし、今後の学習につなげるようにする。（ハ） ◇関②【観察、学習カード】 ☆デビューレベルをチェックし、学習全体を振り返るようにする。（ロ）

カ　成果と課題

○成果

・明確な到達目標を設定し、学習計画を１時間目に確認し、毎時めあてを確認することで、児童は自分なりの到達点に向けて主体的に活動する姿が見られた。その結果、最終的には全員が自分達でソロで歌う部分を設定し、クラスの友達の前で歌声を披露することができた。（イ）

・学習カードを使って毎時到達目標の達成度を数値化し、自己評価することで、学習で分かったことや思ったことを振り返るきっかけとなった。また、題材全体を振り返った際に、数値が上がっていることが学習カード上で視覚的に確認でき、達成度を数値化することは自分の成長を実感として捉えるのに有効であった。（ロ）

・前時を振り返る際、教師が児童の振り返りコメントをまとめて全体で共有したことで、互いの思いや考えを知ることができ、学習の方向性を整えることもできた。（ハ）

・毎時児童が学習カードに記入した言葉に対して、思考を整理するような助言を書くようにしたところ、児童はめあてとともに助言も意識して振り返りを書くようになり、共通事項を活用する方法を言葉で言い表せるようになった。思いや意図を言語化できるようになったことで、次の学習に学びがつながるようになった。（ハ）

△課題

・自己評価はすぐにできたが、思いや考えが深まったことによって振り返りに時間がかかり、その時間内に振り返ったことを全体で共有する時間を確保するのが難しかった。音楽に触れ合う時間を確保するために、振り返った内容は次時で共有するとともに、題材の最後の時間ではその時間内に共有するなど、振り返りを共有する時間設定の工夫をする必要がある。（ハ）

Ⅶ　成果と課題

本研究では研究主題を「音楽の学びを通して、自分の成長を実感できるようにするための指導の工夫」とし、「音楽の学びを実感できるようにするための三つの手だて（☆）」と「音楽の学びを充実させるための五つの基本（★）」として整理し、研究を進めてきた。この中の三つの手だてに沿って、以下に１年間の研究で確認したことをまとめる。

１　研究の成果

【(イ)見通しをもって学習に取り組むための工夫】

・児童は学習の最終的な到達すべきイメージをもつことができた。

・毎時の具体的なめあてを学習計画に沿って提示することで学習内容が明確になり、児童が課題に対して主体的に取り組む姿が見られるようになった。

【(ロ) 根拠を明確にして自己評価するための工夫】

・自己評価を数値化することは、児童の思いが具体的に表現できる指標となった。

・毎時間自己評価を行うことにより、自分自身を客観的に振り返る有効な手立てとなると同時に、自分の成長を実感として捉えるのに有効であった。

【(ハ)学びの連続性を生み出すための工夫】

・児童は毎時間の学習カード等で振り返ることを通して、自分自身の課題を見つけ、次回の活動への見通しをもちやすくなり、自分の成長を確認することができた。

２　今後の課題

検証を重ねた結果、以下のような課題が挙げられた。

【(イ)見通しをもって学習に取り組むための工夫】

・必然性のある目標（到達目標）やそれに対する毎時の具体的なめあてを学習計画に沿って提示していくためには､指導者が今まで以上に見通しをもつことが必要不可欠である。

【(ロ) 根拠を明確にして自己評価するための工夫】

・児童の発達段階に応じた自己評価の方法について、更に検証を重ねていく必要がある。

【(ハ)学びの連続性を生み出すための工夫】

・振り返りの時間を毎時間設定することにより、児童が音に触れ合う時間が必然的に短くなってしまうため、学習内容や学習活動を精選する必要性がある。

本研究はまだ途上にあり、これからの実践によってより具体的に成果を検証していきたいと考えている。

平成 29 年度　教育研究員名簿

小学校・音楽

学　校　名	職　名	氏　名
台東区立根岸小学校	主任教諭	後藤　慶子
渋谷区立猿楽小学校	主任教諭	三木　由喜乃
豊島区立目白小学校	主任教諭	小林　法子
調布市立杉森小学校	主任教諭	福岡　典子
東村山市立大岱小学校	主任教諭	◎三原　浩子

◎　世話人

〔担当〕東京都教職員研修センター研修部教育経営課
指導主事　　角田　恒一

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

小学校・音楽

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年３月

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所　在　地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８４９
印刷会社　康印刷株式会社

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。